京 機 短 信

No.125　2009.12.20

京都大学機械系工学会（京機会）　tel.& Fax. 075-753-5183
E-Mail:　jimukyoku@keikikai.jp
URL:　http://www.keikikai.jp　編修責任者　久保愛三

評議員会報告

評議員会議長　　熊澤正博

評議員会は平成19年度の秋季総会にて卒業年度別同期会の代表を評議員として再編成し、従来から実施してきた支部活動と縦糸と横糸の関係を持たせて京機会の活性化を図ってきました。

平成21年度の評議員会は11月28日の総会の前に評議員と京機会幹事、運営委員計５１名が出席して開催されました。この内容についてご報告します。

京機会事務局より最近の京機会の活動状況について説明が以下のようにありました。

(1) 評議員を卒業年度別同期会の代表として評議員会を改定し、支部活動と協調して京機会の活性化を図ってきた。（平成19年度）
(2) 春季総会を各支部が持ち回りで開催することし、地方会員の参加を促進している。(平成20年度)
(3) 会長が久方ぶりに民間から大学に替わり、久保名誉教授が会長に就任した。（平成21年度）
(4) 若手交流会、新社会人歓迎会、MOHR研究会等の新企画を推進して京機会の活性化を図っている。（平成21年度）
(5) 各支部長より支部毎に京機会の活性化にご努力いただいている内容についてご説明がありました。
(6) 平成20年度の決算報告を行いました。京機会の予算規模は約1,400万円程度であり、毎年100万円程度の赤字となっている。会費の納入率は38%であり、本部としては魅力のある企画を行うことにより参加会員の増加を図り、会費納入者の増加を期待している。
(7) 評議員の方々への依頼事項として学年同期会の開催の促進をお願いしました。

評議員会で出された意見の要約をお知らせ致します。

１．赤字運営問題について

久保会長から「現在、京機会の活動を維持するために毎年、100 万円以上の赤字経営が続いており、過去の資産を食いつぶしているのが現状である。　この状態を解決する事の重要性は昔から認識されており、歴代会長は並々ならぬご努力をされてきたが、会費納入率 40%弱の状況はあまり変わらない。　これはすべての動物の集団に於いて、その 1/3 は働き者、1/3 は日和見、残りの 1/3 は何もしないか批判的な者、と言う原則から仕方がない事かも知れないが、このままではあと１０年もすれば京機会運営が行き詰まるので、何とかする必要がある。」との話がありました。これに対して、以下のような意見が述べられました。

(1)「今回初めて出席して、京機会の会費未納入問題など問題点が多いこと判りました。　我々の学年は毎年同窓会を開催しており、評議員は持ち回り制にしているので、なかなか問題解決は困難です。　しかし同窓会を通じて納入を PR して行きた。」

(2)「1/3 説のご説明がありましたが、どこの同窓会でも同様かと思います。　会費納入率 38% はとても優秀で、これを上げるのは至難でしょう。経費を維持するには、無関心派と非協力派の 2/3 の方々へのサービスを停止するのがよいと思います。　参加派の 1/3 の活動が増えるに従い、参加も増加することと思います。」

(3)「京機会行事の参画を増やし、同期会の定期開催し、会費納入を呼びかける事が必要である。家族ぐるみのｲﾍﾞﾝﾄを増やし、参加する事が楽しみになる雰囲気が出来れば、全てについて良い方向に向かうのではないか。」

２．京機会活動について

全ての京機会会員＜卒業生、現役教員、学生＞の益になるよう、京機会が、どの様な方向性を持って活動をすべきかについて、以下のような意見が述べられました。

(1)「車社会になって、酒席を持つ回数が大幅に減少し、人と人とのコミュニカーションが減っている今日、企業内学閥等の批判はあっても、もっと多くの人が集まる機会を作り、積極的に参加してもらうことが当人の人生にとって大切である。大学は本来、学門的心配をするところであるが、会社はそうではなく能力、実力主義で全てが決められて行く。　これを忘れて企業内で大学の同窓生が集まることを避けるのはおかしい。　企業内同窓会活動をもっと他大学も含めて活発化することが大事なのではないか。　また、これを後押しする大学側の努力が必要である。」

(2)「海外便りと言うか、海外にいる駐在員に記事を書いてもらう。　また、留学経験者にも連絡を取り、記事を書いてもらうようにしたら如何か。　このことにより、京機会が世界の現状を知る情報源にもなり、一体感を醸し出させる大きな力になるのではないか。」

３．学年評議員の役割について

(1)「評議員は各年次の代表ということである。　学年からの意見を聞くにつき、評議員が同期にどう声をかけ招集する機会をもつかが簡単ではない。　ただ単に「集まらないかい？」だけでは、あまり効果がない。　京機会の事業企画についても、ある卒業期に順番に回していくことも一案かと思う。　何か宿題なりこれをしなければならないから集まって欲しいという形の方が、声をかけやすいし、定期的に企画・準備に向けて集まろうというモチベーションになるのではないかと思う。

(2)「支部＝地域　評議員＝時代」という組み合わせで春季大会を活性化していくか、または春は支部主催、秋は複数の卒業年度が主催することも検討したら如何か。」

参加いただいた評議員の方々から活発なご意見をいただきました。　京機短信の読者の方で京機会の活性化についてご提案をいただければ有り難いと考えております。　ご意見の送り先は下記にお願いします。

jimukyoku@keikikai.jp

京機学生会　"学生と先輩との交流会"

11月 28日(土)、京都大学百周年時計台記念館2F国際交流ホールにおいて標記交流会が開かれました。

昨年までは、教室のロビーや廊下にブースを設置して開催されていたものですが、今年は広い会場一同にブースを設置しての開催です。　参加社数　94社（内省庁2)、企業側からの参加者数、208名、 その内の京機会会員（OB)数　130名、学生参加者の正確な数は把握できておりませんが、学生向にSMILEが編纂した企業BOOKは400冊用意し増刷したとの事ですので、かなりの学生が参加したと思われます。

秋季大会講演会・総会

京都大学時計台百周年記念館 百周年記念ホールで、総会に先立ち、Ｓ 31 卒、赤松映明 京都大学名誉教授に先生が永年取り組んでいられる人工心臓の話、また、京機会行事が会員家族全員が楽しめるような企画にする目的もあって、ご家族の方にも興味を持ってもらえそうな工学以外の話という事で、平成 19 年『源氏物語の時代 - 一条天皇と后たちのものがたり -』(朝日新聞社)によりサントリー学芸賞（芸術・文学部門）受賞された、京都大学文学部卒、京都学園大学教授･平安文学研究者の山本淳子氏に源氏物語の話をお願い致しました。

『磁気浮上遠心人工心臓ポンプの開発を振り返って』では、ポンプ現物や人体模型をも使って、人工心臓ポンプの全般にわたる興味深い話がされました。　交流会参加者多数と、赤松先生のご講演をお聞きしたいと 2 名の会員外の方もお越しになりました。

山本先生の話は『光源氏のスパルタ教育』と題するもので、光源氏がその息子夕霧を政界で成功させるためにいかなる教育をしたかが、我々が光源氏に持たされている浮ついたプレイボーイ的イメージを否定して、現実社会の中の像として興味深く話され、多くの聴衆を引き込みました。

家族が興味を持って参加するようにとの企画のせいか、参加者数は一般会員参加者が 136 名 + ご家族 5 名と、今までの記録を更新致しました。

講演に引き続き、総会が開かれ本年度の活動の中間報告と会計状況が報告されました。　また、京機会の大学側活動を支援する脇坂基金、久保基金が創設された事が報告されました。

学生と先輩との交流会が開かれていた時計台百周年記念館国際交流ホールに場所を移し、懇親会が開かれ、講演会、総会の参加者に、学生 80 名、交流会関係者を加え、300 名以上の進行が深められました。　京大副学長の大西教授や工学研究科長の大嶌教授も参加され、同窓会の大切さと京機会への応援を述べられました。

懇親会で 2010 年 4 月 17 日岡山で開催の春季大会の予告をされる
薦田中国四国支部長

なお、時計台百周年記念館前では全国学生フォーミュラの京大チームであるKART が昨年度製作したフォーミュラカーを展示し、講演会・総会・懇親会の合間の時間を楽しんでもらうため、サロンで絵画・書・写真展が開かれました。

京機短信への寄稿、　宜しくお願い申し上げます

【要領】

宛先は京機会の e-mail：　jimukyoku@keikikai.jp　です。

原稿は、割付を考えることなく、適当に書いてください。　MS ワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。　割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。

宜しくお願い致します。

編集者よりのお詫び：

紙面の都合で、【連載】の「エネルギーのはなし　第 3 編(その 4)」は次号にまわさせて頂きます。　どうも、すみません。

1972年卒同窓会参加者より一言

本田　博　（1972年卒）

京機短信第124号で報告した標記の同窓会に参加された方々の声を紹介致します。

今回の企画･準備のおかげで、関東にて初の同期会が開かれました。　第２の人生に入っていく仲間が増えている状況下、貴重な情報交換ができたと思います（小川)。

準備ふくめ、いろいろと有難うございました。酒、つまみまで準備頂き、ありがたくも申し訳ない気持ちです(杉谷)。

久し振りに４０年ほど昔の入試をはじめ、いろいろな京都の学生生活を思い出して、懐かしい気分に浸れました（鈴木)。

すばらしい場所(京都大学東京オフィス)で、今度は景色を堪能できるDaytimeに出来たらいいですね。　学生時代に全員の集合写真でも取っていれば記憶ももっと確かに出来たろうと思いました。これからは定年自由人が増えていくでしょうから、また楽しみです(津留)。

４０年弱前の学生時代を記憶の片隅から少し思い出すことが出来、楽しい時間を過ごさせていただきました。　卒業以来、初めてお会いする方ばかりでしたが、お名前を伺い、当時の面影を感じ取れました。でも、やはり夫々年輪を重ねていましたね(豊島)。

世話役をしていただきありがとうございました。　とても楽しい時間を過ごすことができました。　小川さん、写真をお送りいただきありがとうございました。また、近い内にお会いできることを楽しみにしています(中村)。

35年ぶりにいろんな話を聞けて大変楽しいひと時でした。こんな感じの気軽な集まりならまたあると良いですね(廣瀬)。

４１年余り前の入試では雪が降り、風邪のせいで、頻繁に鼻をかんで、隣に座った絹田君やその他の受験生に迷惑を掛けた事が思い出されます。　学生時代、軟式庭球部の活動で、特にリーグ戦前は忙しく、機械工学科の仲間との付き合いが、比較的少なかった小生にとって、こんなにも気楽におしゃべりできる仲間の大半を３８年近くも忘れていたなんて信じられません。　今回、旧交を改める事ができ、貴重な財産を得た気

後列向かって左から豊島達雄、鈴木格、杉谷敏夫、三木教司、中村貞行、
前列向かって左から廣瀬勇次、小川潤、本田博、津留眞理夫の各氏

分です。(本田)。
　光陰は矢の如しで、いつの間にか年を重ねてしまいましたが、世話役のご好意や、皆様方のお元気なお姿に接し、過ぎし日を思い出し又来る日に思いを馳せる機会を持つことができました。　お会いした折は、初対面と変わらない状況であったにもかかわらず、同窓というものは有り難いもので、忌憚のないご意見を聞かせていただいたり、また愚見を披露したりと、本当に有意義な時間を過ごすことができました。　有難うございました。　これからも、末永いおつきあいをお願いできればと思っております(三木)。

平成２１年度ＫＭＣ総会開催

ＫＭＣ事務局

　京機会関西支部ＭＯＴセンター（ＫＭＣ）は設立３周年を迎え、去る１２月１２日、ホテルグランヴィア大阪において、平成２１年度の総会を開催した。
今総会はＫＭＣがその活動の円滑な運営のため賛助会員として提携し、協力していただいているビジネスパートナー（ＢＰ）各社の代表者にも参加を呼びかけたため、総数２９名と過去最高の参加者となった。　来賓の京機会代表松久寛教授および関西支部長平田誠計氏の挨拶に続いて、中谷会長から本年度の活動概況について、設立後３年を経過して僅かずつではあるが基礎が固まり、会員総数も６４名（前年比＋９名）と増加し、活動の幅が広がって来たと報告があった。またＫＭＣ広報の為に、京機会ホームページに繋がるＫＭＣホームページの立ち上がりの目途がついたとのことで、担当の上田正一氏（昭４３年卒）から実演付きで紹介された。

決算報告と承認に続いて、ＫＭＣ規約改正の提議あり。
主な変更点は
１．ＫＭＣが非営利任意団体であることを明記。
２．ビジネスパートナーを協賛会員として、協力体制を高めると共に、会費を納入していただき、ＫＭＣ活動費にあてる。
３．総会、運営委員会の位置づけ確認
などで、ほぼ原案通り承認をうけた。

新年度役員紹介につづいて、各担当部長から２１年度の活動成果報告と２２年度の方針紹介あり。
ビジネスマッチング部（林完爾部長―昭４３年卒）からは
１）本年は京都リサーチパーク（株）との連携により、鉄道やエネルギー環境部門に関して、ベンチャー企業のシーズと、大手企業のニーズをマッチングする場

を提供し、全国的にも高い評価を受けた。

２）これらマッチングや、各種セミナーの講師派遣に当たり、京機会会員、ＫＭＣ会員の力強く、温かいご支援をいただき、ＫＭＣネットワークの幅を一段と広げる事が出来た。

３）今年は京機会の枠に留まらず。全京大、更には他大学の産学連携部隊や同窓会と情報交換してネットワークの拡大に努力すると共に、マッチングの成果向上のための研究なども課題として取り上げる。

人材マッチング部（西宗久昭部長―昭４０年卒）からは、今年は京機会会員を中核とするネットワークを活用して、人と企業のマッチングにつとめ、６件の成約をみた。　新年度は特許先行技術調査員募集に関連して、京機会だけでなく、他学部ＯＢ会にも働きかけをしてみたい。

インキュベーション部（並木宏徳部長―昭４４年卒）からは、テクノロジーシードインキュベーション（株）との連携で、企業再生や起業支援などに協力しているが、今後ＴＳＩ／ＫＭＣ連携して、幅広い活動の出来るインキュベーターを構築し、次世代の日本をリードするような産業の育成を目指すとの力強い説明があった。

以上で総会を終了、顧問永井将氏（昭３１年卒）の挨拶と乾杯音頭を皮切りに懇親会に入った。　協賛会員である京都リサーチパーク（株）岡田直樹氏、テクノロジーシードインキュベーション（株）往西 裕之氏のご挨拶に続いて、新しく運営委員に加わった長井俊彦氏（昭３９年卒）、初参加で支部ＫＭＣ分科会奥平有三氏（昭５３年卒）、東京から駆けつけた松原大樹氏（平１７年卒）、参加者の紅一点山口美賀氏（平１５年卒）など数多くの参加者からのスピーチがあり、和やかで実りある談笑の時間のあと、坂戸瑞根氏（昭３２年卒）の中締めにてお開きとなった。

平成 22 年度 支部総会･新年会のご案内

平成 22 年度も下記の通り、総会・新年会を開催いたします。
多数のご参加をお待ち申し上げます。

日　　時	平成 22 年 1 月 16 日(土)
会　　場	ホテルグランヴィア大阪　（20F 孔雀の間） 〒530-0001　大阪市北区梅田 3 丁目 1 番 1 号 TEL：06-6344-1235(代) JR 大阪駅・中央改札口右手すぐ
時　　間	総　会：17:00（20F 孔雀の間） 新年会：17:45（20F 鳳凰の間）
懇親会費	無料 （平成 21 年 4 月新入社員の会員） 3,000 円(学生･大学院生) 5,000 円(平成 12 年以降学部卒業の会員) 10,000 円(平成 11 年以前学部卒業の会員)

当日は、15：00～17：00 より　同会場（20F 孔雀の間）にて、第二世紀事業会リカレント講演会を開催いたします。併せてご参加ください。

テーマ：リレー講義
「エンジニアリングトライボロジー入門：摩擦・摩耗・潤滑の基礎理論」
講　師：森 淳暢氏（元関西大学教授）
平山朋子氏（同志社大学 理工学部 准教授）

人 類は生活の中で常に摩擦・摩耗現象と向き合ってきた。役に立つ摩擦・摩耗、邪魔になる摩擦・摩耗。法則性と現象のメカニズムを追い求め、摩擦・摩耗を自由 に操る潤滑技術の獲得を目指して、今もなお、飽くなき闘いを続けている。摩擦の低減は省エネに、摩耗の低減は省資源につながり、個々の改善は僅かでも、全 世界の全産業で積分すれば、莫大なエコ対策に通じる。このような認識に立って、摩擦・摩耗・潤滑に関わる諸課題への挑戦は、トライボロジーという新概念の もと、新たな展開を見せて久しい。現在では、原子・分子レベルの挙動から現象を解き明かそうという段階に差しかかっているが、多くの産業を支える諸技術に あってはマクロなレベルでの成果が期待されるため、ミクロな成果をマクロな技術に結びつけるメゾ領域の取り組みの重要性が増している。本講演の前半におい ては、マクロレベルでの成果のベーシックな部分を森が紹介し、ミクロレベルでの最近の成果の一部を平山が紹介する。

申し込み	締切　12 月 20 日（日）

関東支部

第１０回
総会・新年会のご案内

【案 内 図】

JR品川駅下車　高輪口から徒歩10分

	平成 22 年 1 月 23 日(土)　16：00～19:30（15：45 より受付）
会　場	日立金属 高輪和彊館 【MAP】 〒108-0074 東京都港区高輪 4-10-56 TEL 03-3443-1717 JR 品川駅下車　高輪口から徒歩 10 分
内　容	総会(講演を含む) 16：00～17：30 講演：「パズルを楽しむ」矢部 寛氏(S35 卒 京都大学名誉教授) 懇親会：17：30～19:30
会　費	8,000 円(1992 年以前に学部卒業の方) 5,000 円(1993 年以降に学部卒業の方)　（当日会場でお支払い下さい）

当日は、14:00～15:45 に同会場にて、第二世紀事業会リカレント講演会を開催いたします。
併せてご参加ください。

テーマ:「生体組織・細胞の力学構造と機能的適応:力学とバイオ」

講師：安達泰治氏（京都大学工学研究科機械理工学専攻准教授）

生体組織・細胞の構造・機能関係の適応的なダイナミクスについて、力学的な観点から進めているシステムバイオメカニクス研究を紹介する。特に「力学的階 層性」および「力学とバイオの相互作用」に着目し、骨の形態と機能的適応との関連，および，アクチン細胞骨格の動的機能における力学の役割に関する最新の 研究例をわかりやすく紹介する。

このようなバイオに対する力学的アプローチは、細胞・分子レベルにおいて重要となるであろう「バイオとナノの融合」研究への展開を目指すものであり、今後、機械工学が重要な役割を果たす一つの分野として、その発展が大いに期待される。

申し込み	http://www.keikikai.jp/shibu/kantou/gyouji.html

片井修教授退官記念行事のご案内

旧岩井研、片井研、椹木研、下原研の OB，OG の皆様でメールアドレスの分かる一部の方々には既に連絡差し上げているところですが、片井修教授がご退職されるのを機に、御退官記念行事を予定しております。
詳細は、下記の web page をご覧下さい。

http://www.symlab.sys.i.kyoto-u.ac.jp/taikan/

○退官記念行事（最終講義など）
2010 年 3 月 27 日（土）14:00 ～
知恩院（京都市東山区林下町 400）雪香殿
○懇親会（兼 OB 会）
2010 年 3 月 27 日（土）18:00 ～
ウエスティン都ホテル （京都市東山区三条蹴上）二階：山城の間

なお、事前参加申込みの期日を 1 月 31 日(日) にしております。

川上浩司（世話役代表、京都大学准教授、岩井研 '87 卒業）
塩瀬隆之（世話役副代表、京都大学准教授、椹木研 '00 修了）
椹木哲夫（相談役、京都大学教授、岩井研 81 卒業）
西山高史（相談役、パナソニック電工、岩井研 '86 卒業）
中谷志野舞（事務、京都大学片井研秘書）
寺川公美子（事務、京都大学片井研初代秘書）

「京機会関西支部若手交流会：ラグビー観戦と夕食会」

１．ごあいさつ
京機会の若手の活動の活性化のために、今年度より関西支部若手交流会が発足しました。 本会では若手参加者自身が文化的な行事を核とした交流活動を企画・運営することで、職場と家の往復だけになりがちな普段の生活においてなかなか得ることができない様々な人との出会いと交流の機会をつくり、社会人に必要不可欠な人脈形成の推進を図りたいと考えています。 第３回を下記内容で企画しました。過去の２回はいずれも好評でした。ご興味のある方はぜひお気軽にご参加ください。 ご夫婦でもご参加いただけます。
２．日時　　１月９日（土）１３時から１９時頃まで
３．場所　　ホームズスタジアム神戸、クチーナイタリアーナニョッキ 本店
集合場所（予定）
ホームズスタジアム神戸入場口付近（最寄駅：地下鉄御崎公園駅）

４．内容

13:00～13:30　集合（会費集金、チケット配布）
13:30～13:45　会場内移動、着席
14:00～16:00　ラグビー観戦（神戸製鋼ｖｓ東芝）
16:00～17:00　懇親会会場へ移動（地下鉄）
17:00～19:00　懇親会（クチーナイタリアーナニョッキ 本店）
19:00 過ぎ　解散

５．会費

5,000 円程度（参加者数によって多少増減します）

６．その他

・カジュアルな服装でご参加ください。
・移動の際の切符は各自でご購入ください。
・参加登録は本会の HP 内で行ってください（メンバー登録の必要有）。
（http://www.keikikai.jp/juniorsalon/）
・最終のご案内までに会費や夕食会の会場が変更になる場合があります。
・無断欠席・締切後のキャンセルによりキャンセル料が発生した場合は
実費分を徴収します。ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。
・京機会本体の年会費が未納の場合には、当日会場でお納めいただけます。

７．申込締切

１２月２５日（金）（定員２０名）

INFO

● 詳細は PDF 版でご覧下さい。

１．アジアを「内需」に　―規格・制度の標準化で―

http://www.nira.or.jp/outgoing/report/entry/n091029_397.html

NIRA 研究報告書 2009/10 発行

本報告書では、アジア経済の長期的繁栄を実現し、日本とアジアの相互の成長を果たすにはどうしたらよいか、について考察した。まず求められるのは、日本が内需・外需の二分法から脱却し、アジアを「内需」と呼べるほどの強い結びつきと連携関係を持つことである。日本は、アジア諸国とともに、アジア経済の潜在的市場規模を活用した国際的な規格・制度の標準化（制度のハーモナイゼーション）を進めていくべきである。また、日本国内のみならずアジアでも、規格・制度の標準化に関する専門人材の育成が急務であり、本報告書では、日本がそのための積極的支援を行うよう提案している。

サマリー　http://www.nira.or.jp/pdf/0903summary.pdf
全文　http://www.nira.or.jp/pdf/0903report.pdf

■ 目　次

はじめに
１．アジア市場は重要だが
２．欧米にとっても重要な市場
３．相互の発展を目指すべき
４．アジアを「内需に」！
５．アジアで制度の標準化を
６．なぜ今重要なのか
補論：食品産業における安全安心基盤の確立

■ 執筆者

柳川　範之　東京大学大学院経済学研究科・経済学部准教授／NIRA理事
神田　玲子　NIRA研究調査部長
森　直子　NIRA研究調査部リサーチフェロー
畑佐　伸英　NIRA研究調査部リサーチフェロー

２．成長する中国・インドの消費市場に向けた日本企業の戦略

日本政策投資銀行

http://www.dbj.jp/topics/report/2009/files/0000003400_file2.pdf

中国・インドでは消費意欲旺盛な中間層が増加しており、生産拠点のみならず拡大する消費市場としても注目を集めている。ただし消費のうち、今後増加が見込まれるのは、耐久財よりも非耐久財やサービスである。また両国間では増加が見込まれる所得階層や、消費嗜好はかなり異なっている。本稿ではこうした環境変化のなかで、日本企業がとるべき事業戦略について考察する。

３．NRI Knowledge Insight Vol.6　(2009年11月号)　野村総合研究所

http://www.nri.co.jp/opinion/k_insight/index.html
本文　http://www.nri.co.jp/opinion/k_insight/2009/pdf/ki20090600.pdf

野村総合研究所のコンサルタントが、多様な専門的見地から、毎回一つのテーマを軸に論考を発信。領域を超えた共通の視点や枠組みを導き出し、ビジネスの本質に迫ります。本稿では、海外で事業を展開する日本企業のとるべき戦略を、経営資源の調達という視点から論じています。環境ビジネスや資源調達の領域では、バリューチェーン上の川下領域への集中の重要性が指摘され、海外の消費市場をねらったビジネスモデルの構築にあたっては、現地や他国の企業と提携し、経営資源を組み合わせることの有効性が指摘されています。もはや「日本企業の海外進出」という時代は終わりを迎え、海外事業の展開においては、日本企業が得意とする機能を明確にし、国籍や国境を越えて経営資源を最適に組み合わる時代が到来しています。

環境ビジネスの海外展開に向けた川下領域への取り組み 技術・産業コンサルティング部　向井肇

http://www.nri.co.jp/opinion/k_insight/2009/pdf/ki20090601.pdf

注目が集まる環境ビジネスの中でも有望な「水」「エネルギー」市場では、川下領域をねらう日本企業は多いが、成功例はまだ少ない。同じ川下領域でも、EPC/ 維持管理 / 運営といったポジションによって、また同一市場の中でも分野によってKFS が大きく異なる。そのため、ねらうべきポジション・分野を明確にし、それに適したリソースを確保することが急務である。

高まる鉱物資源調達リスクへの対応策 社会システムコンサルティング部　駒村 和彦

http://www.nri.co.jp/opinion/k_insight/2009/pdf/ki20090602.pdf

鉱物資源の調達リスクが急速に高まる中、資源ユーザー企業にとって、資源の安定調達が重要な経営課題となっている。本稿では、とくに川下対策による資源リスク・マネジメントの必要性について論じる。自社のクリティカル・メタルの分析に基づく企業内の省資源対策や複数企業による共同対策の検討、および企業の取り組みを推進するための業界団体・政府による支援や環境整備が求められる。

アジア向け国際ネット通販事業の成功条件 金融戦略コンサルティング一部　木ノ下 健

～巨大消費市場へのアプローチ方法～

http://www.nri.co.jp/opinion/k_insight/2009/pdf/ki20090603.pdf

各国のネット通販市場の拡大に伴い、日本企業によるアジア向けビジネスへの参入が加速している。この市場での成功に向けては、ネット上の顧客接点や物流機能のあり方を十分に検討し、コストを抑え消費者が安心して商品を購入できる仕組みを作ることが重要である。そのためには、企業単体による参入ではなく、モール事業者など第三者との提携が有効である。

金融危機後の中東経済とサウジアラビアの可能性 公共経営戦略コンサルティング部　野呂瀬 和樹

～有望市場「MENA」のゲートウェイとして～

http://www.nri.co.jp/opinion/k_insight/2009/pdf/ki20090604.pdf

中東から北アフリカに至る巨大市場「MENA」は、急速な人口増と経済の発展により、市場としての重要性を増している。中でも、最も注目すべき国がサウジアラビアである。本稿では、MENA とサウジアラビアの市場の概況や特性を述べるとともに、日本企業のサウジアラビア進出を支援する日本・サウジアラビア間の産業協力政策の枠組みや、その先進事例を紹介する。

ロシアの WTO 加盟実現が日本企業に及ぼす影響 グローバル戦略コンサルティング二部　藤田 葵

～金融危機脱出後の交渉前進を見据えて～

http://www.nri.co.jp/opinion/k_insight/2009/pdf/ki20090605.pdf

日本企業は、ロシアのWTOへの加盟時期をにらみ、今のうちから、ロシアに製品を導入する際の生産・物流・販売の構造を再構築しておくことが重要である。本稿では、交渉の経緯や、ロシア・周辺国・欧州諸国の外交と内政的関心事に鑑み、ロシアの加盟実現時期を展望する。また、加盟が実現した場合、日本企業のロシア事業に及ぶ具体的な影響と日本企業が取るべき対応策について言及する。

メディアを見ればその人がわかるII ：　サービス事業コンサルティング部　前川 佳輝
海外に投資をする人
http://www.nri.co.jp/opinion/k_insight/2009/pdf/ki20090606.pdf

４．米国経済の現状と展望２　正常化へ向けた緩やかな回復続く　2009年10月26日
丸紅経済研究所　ワシントン事務所長　今村卓
http://www.marubeni.co.jp/research/1561/005580.html
本文　http://www.marubeni.co.jp/dbps_data/_material_/maruco_jp/data/research/w_pl_ec/pdf/091026imamura.pdf

５．低迷する住宅着工の現状と中長期展望
三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング
～住宅着工100万戸割れは定着してしまうのか？～
http://www.murc.jp/report/research/detail.php?i=1035
全文　http://www.murc.jp/report_pdf/20091009_152438_0795411.pdf

○2008年9月のリーマン・ショック以降、他の経済指標と同様に、住宅着工戸数も極端な落ち込みを余儀なくされてきた。リーマン・ショックから1年が過ぎ、いくつかの経済指標では、下げ止まり、もしくは反転の動きがあらわれてきているが、住宅着工戸数は目下のところ下げ止まりの兆しを見せず、著しい低迷を続けている。

○今般の住宅着工の低迷は、需要サイド（住宅の需要者である家計）と供給サイド（住宅の供給者である住宅業者）がともに活動を萎縮させた結果、生じた現象と言える。家計が住宅購入を見合わせている要因としては、(1）住宅価格の先安感、(2）住宅ローン金利の低金利持続期待、(3）雇用・所得環境の悪化などが指摘される。
一方、住宅供給業者が新たな住宅供給を控える要因としては、(1）在庫の積みあがり（売れ残り物件の販売を優先)、(2）新規プロジェクト資金の調達難、(3）プロジェクト組成の凍結（過去に高価格で仕入れた物件について利益がとれる価格になるまで）などがあげられる。

○一定の仮定の下、中長期的な住宅着工戸数の試算をおこなうと、2009年から2013年までの5年間の住宅着工戸数は427万戸で、1年当たりでは85.4万戸と

なった。2014年以降は、1年当たりにすると60万戸台の推移が見込まれる。住宅着工戸数100万戸割れは今後も定着することになりそうだ。

○世帯数の減少がもはや避けられない中で、住宅着工、住宅投資がジリ貧となっていくのを避けるためには、住み替えや建て替えの増加、あるいはリフォームの増加に活路を見出す以外に方策がない。住まいの改善は人々の厚生を高め、街並み、景観の改善にもつながる。放置すればジリ貧とならざるをえない住宅投資を政策によって押し上げる工夫が求められる。

編修後記

これが2009年最終号です。　世界混乱の大嵐の一年、　まだ嵐のまっただ中で一年を終わろうとしています。　もっとクチャクチャになれば日本の国際的評価が下がり円安になって日本経済が復興するなんて言うブラックユーモアではなく、実体のある強さに向けての来年を期待して、みなさま、良いお年をお迎え下さい。

報告

年の瀬も押し迫ってまいりました今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回はフレーム完成のお知らせと、学生フォーミュラ大会で大きなウェイトを持つデザイン審査について報告します。

■YJ-R08フレーム完成！

新年度車両YJ-R08の製作開始から約1ヵ月半が経過しました。少しずつではありますが、形になりつつあるパーツも増えてきました。　そんな中、今月中旬、ついに車両の骨格であるフレームが完成しました。　例年よりおよそ3ヵ月早いペースを保ちつつ、順調に製作を進めています。

完成したフレームでポジションチェック

現在、このフレームにはエンジンやサスペンションといった様々なパーツを組みつけるためのブラケットが次々と溶接されています。　ブラケットはフレームの溶接中にメンバーが一丸となって製作しました。また、ブラケットの溶接と並行して、車両の肉となるパーツの加工を行っています。　だんだんと無機質な「材料」が個性的な「パーツ」へと変貌を遂げていき、全体として「車両」に近づいていきます。

機械加工にはある程度の時間がかかるため、完成までにはまだしばらく時間がかかります。しかし、YJ-R08は日々、刻々完成に向かっております。　その姿をこれからも皆様に少しでもお伝えできれば幸いです。

■デザインレポート草案作成

私たちが参加している学生フォーミュラ大会は「速い車両であればそれでいい」という大会ではありません。確かに「速い車両」であることも重要ですが、同時にその背景部分も審査の対象となります。

製作の進むブラケットやパーツ

走行競技以外には、車両の設計思想や性能評価について競う「デザイン審査」をはじめとして、車両コストをいかに正確に把握し、低く抑えるかについての「コスト審査」や製作した車両をいかにして販売するかのプランを披露する「プレゼンテーション審査」があります。　これらは「静的審査」と呼ばれており、静的審査全体で満点の4割を

占める非常に重要な部分です。　実際に、強豪校は「文武両道」とでも言うべきか、動的、静的の両審査で高得点を獲得しています。　今月は、上記3つのうち、「デザインレポート(設計についてのアピールを書くレポート)」の草案を作成しました。　これに先立って、先月のうちに、各設計者が自分の設計についてエンジン、シャシの各班リーダーに説明していました。　これを各班リーダーが、メンバーに確認をとり、話し合いつつまとめあげていきました。　しかしながら、これはまだあくまで「草案」です。今後は、これをたたき台にして、メンバー全員で意見を出し合って完成に近付けていきます。

白熱した議論が続きました

　また、車両完成後はテスト走行と並行して実際の車両でデータを収集します。収集したデータは、設計時に目標としていた数値、あるいは数値解析で得られた数値と比較して、どれだけ目的を達成できたかレポートに記載します。まるで企業で試作品を作っているかのようなことを行います。

　車両を的確に評価するには複数回のテストが必要になります。それも、単一のパーツではなく、複数のパーツについておこなうので、早期シェイクダウンが必要不可欠です。そのために、メンバー一同車両製作に取り組んで参ります。